

子どもの笑顔あふれる下関

〜子育てが楽しめるまちづくり〜

これからの下関を元気でいく子どもたち。彼らが健やかにたくましく育ち、笑顔があふれる下関を目指し、子どもと子育てを応援する地域づくりを進めています。

実際、現場で子どもたちに携わっている人たちに、私たちでは感じることができない、気付くことができないところを踏まえ、子どもの笑顔あふれる下関の実現に向けて前進するために、市長を交えて語り合ってもらいました。



松本 睦さん



山口 正善さん



宮川 雅美さん



大方 伸敏さん



横山 眞佐子さん



中尾 友昭
下関市長

◎(株)こどもの広場代表
29歳のときに、児童書専門店「こどもの広場」を開店。小学校を回るブックトークなど、幅広い活動をしている。

◎ゆたか保育園保育士
「下関市男性保育士バンドTHE P・I・M・A・N・Z」リーダー
積極的なお父さんの子育てに参加と育児の楽しさを呼び掛けている。

◎主任児童委員部会会長
安心して子どもを産み、健やかに子どもが育つ環境づくりのため、児童相談所や児童福祉の関係機関などと連携した活動をしている。

◎下関市幼稚園PTA連合会 会長(生野幼稚園)
下関市PTA連合会 副会長
会長として、保護者や幼稚園と協力して、より良い子育ての環境づくりに取り組んでいる。

◎ママプラスバンドいしんぴよびよ隊「バンドマスター」
子育て支援ネットワーク「ちやいるどねっと」会員
ブラバンやりたいママのために結成された「いしんぴよびよ隊」や、ちやいるどねっとの会員として、さまざまな子育て支援の活動をしている。



市長 あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願います。本市では、総合計画の6つの重点プロジェクトの一つに、「子ども・子育て応援プロジェクト」を掲げています。次世代を担う子どもたちが健やかにたくましく育ち、子どもの笑顔があふれる都市を目指して、子どもと子育てを応援する地域づくりをさらに進める1年にしたいと思えます。まず、皆さんの取り組みや活動、子育てへの思いなどをお聞かせください。

横山 児童書専門店を始めて今年で35年になります。今では児童書の専門店が子どもの本しか置いていないと皆さん分かりますが、始めた当時は全国でも20軒くらい。「子どものための本屋を作りたい」という思いで始めましたが、最初はこうしたらいいかわかりませんでした。それが今、講演会やシンポジウム、子どもと作家を出会わせるなどいろいろなことをしています。主に力を入れてい

ることは、小学校での選書会です。本市の小学校の図書室を少しずつ充実するお手伝いをしています。

大方 ゆたか保育園で保育士として働きながら、市内現役の男性保育士でバンド活動をしています。何年か前から男性保育士が増えたことで、イベントのたびに保育連盟から「何かしてほしい」との依頼がありました。そこで、男性保育士数人で7年前にバンドを結成。最近ではキッズフォーラムのイベントに出演し、30分くらいの演奏で楽しく会場を盛り上げました。「育メン」(※1)の流行で、お父さんたちも子育てに参加するようになってはきたのですが、もっと自然に育児に入ってほしいという狙いもあってバンド活動をし、積極的なお父さんの子育て参加を呼び掛けています。

松本 私は市内で「ママプラスバンドいしんぴよびよ隊」の活動をしています。平成19年に数人から始まった活動ですが、現在は大人



33人、子ども70数人、総勢で100人余りになっています。大人も増えつつベビークラッシュもあり、どんどんメンバーが増えました。

お母さんたちは演奏中、赤ちゃんを背負ったりベビーカーに乗せたままだったり。他の子どもはその前で歌って踊ってという形で楽しく、とてもにぎやかです。他には子育て支援ネットワーク「ちゃいるどねっと」の役員もしています。

山口 私は下関市幼稚園PTA連合会の会長、下関市PTA連合会副会長として、保護者、幼稚園と協力して、より良い子育て環境づくりに取り組んでいます。

宮川 主任児童委員として活動しています。主任児童委員は、下関地区26地区総勢で54人います。地区の民生児童委員と主任児童委員が一緒になって子どもに関する取り組み、地域・学校・各



関係機関のパイプ役となっています。全国的に少子化が進行しており、家庭や地域を取り巻く環境は大きく変化しています。核家族化の進行や地域社会での人間関係の希薄化などによって、当たり前にあった親や地域の方々の子育てに関するさまざまな知恵や経験が継承されなくなったり、それを生かす機会も少なくなってきました。

そのため、在宅で子育てをしている母親は、子育ての孤立感と心理的な不安から、自分だけで子育てを担いきれなくなることもあり、虐待などの深刻な問題も起こっています。孤立した若い母親に手を差し伸べ、子どもたちが安心して心豊かに育つ環境づくりをすることが私たちの責務だと思っています。



子どもたちと触れ合って

市長 皆さんそれぞれの分野で子どもたちと関わりながら素晴らしい活動をされていますね。実際、子どもたちと触れ合っていることや気付いたこと、考えていることをお聞かせください。

横山 店に赤ちゃんから高校生ま

で遊びに来ていることや、梅光幼稚園の園長の経験もあり、子どもたちと触れ合う機会がたくさんあります。子どもの本質は今も昔も全然変わっていませんが、取り巻く環境がどんどん変わっていることで、生身の人間とのコミュニケーションに不得手の子どもの割合が増えていくように感じます。テレビを見落ち、「ことば」を話しているのは人間なのだと感じないからと言われています。これは、大人になったときに最も困ることだと思えます。子どもは、誰かと面白いこと



※1 育メン…育児を積極的に率先して行う男性、育児を楽しんで行う男性の意味



をし
り、一
緒に遊
んだり
おしゃ
べりを
聞くだ
けで幸
せにな
ります
たかさ
んの言
葉を出

せるようになり行動もできるよ
うになります。簡単なことだけ
その簡単なことをする時間は0歳
から小学校2・3年までです。小
さいときのすぐ大事な時間をそ
ばにいる大人も社会も絶対無駄に
しないでほしいです。

市長 子どもは変わっていない、
社会が変わってきている。本当に
そうかもしれないですね。

横山 今の子どもはタブレット
(※2)を見て、何も聞かずにどん
どん操作する。時代はパソコン、
タブレットの時代。技術力は進ん
でいるけど人間の感性がそこまで
ついていってないと感じています。
市長 インターネット社会になっ
て、コミュニケーション力や社会
性が低下して大きな社会問題にな
っています。市の政策もそこを考
えながら取り組まなければならな
いですね。

大方 24年間保育士として毎日子
どもと接して、友達同士のコミュニ
ケーションが苦手な子が増えてき
ていると実感します。大人にも苦
手な方はいますが、子どもと一緒
に育っていくことが大切だと感じ
ます。大人が変わらないと、子ど
もは子どもらしさがなくなってい
きます。保育園では絵本を読ん
だり、手遊びをしたり、紙芝居を見
たりします。確かにテレビを見せ
ておけば子どもは静かになるし、
その間に大人は用事ができるかも
しれませんが、子どもの目を見て
表情を見て、触れ合うことで、コ
ミュニケーションを取ることが大
切ですね。

私たちは子どもの笑顔が見たい
からこの仕事をしています。絵本
を読むと、目の前で笑ったり、涙
を流したりする子がいます。作者
の想いが伝わり、楽しかった、悲
しかったなど、いろいろな想いを感
じてくれば、保育士としての醍
醐味を感じます。私には子どもが
4人いますが、子どもが増えるほ
ど本を読む時間が増えます。

横山 普通子どもが増えたと本を
読む時間は減ってくると思いま
すけど、増えるなんてすてきです
大方 もっともつと読んであげた
い気持ちになりますね。絵本は、
保育士と保護者の方とのコミュニ
ケーションにも一役を担っていま
す。子どもたちが保育園で読んだ

絵本のことを家で話すようで、よ
く保護者から「先生はクラスでど
んな本を読みましたか？」と聞か
れます。保護者が借りられる絵本
を置いているので、「この本はお薦
めですよ。あの本は絶対面白いで
すよ」といった会話が生まれます
ね。絵本の楽しさを子どもや保護
者に伝えることも、私たちの役割
なのかなと思います。

市長 保育士として、毎日たくさ
んの元気な子どもたちと触れ合う
のは大変だと思いますが、毎日が
楽しいでしょう。

大方 はい、とても。ですが、実
際は大変なこともたくさんありま
す。年末のお遊戯会では、本番ま
で毎日練習をしたり衣装を作った
りと忙しかったです。でも、子ど
もたちが笑顔で演技する姿を見て
保護者が喜び、元気をもらおう。そ
して大人が喜ぶ姿を見て子どもが
喜ぶ。その相乗効果を目指して頑
張りました。

市長 子どもの笑顔を見て大人が
笑顔になる。大人の笑顔を見て子
どもが喜ぶ。本当にそうですね。



小学校でのブックトーク
撮影：吉岡一生氏

松本 ありがとうございます。私
たちの活動には子どもを連れてい
きます。お母さんたちが練習をす
る中で、子どもたちの社会が生ま
れ、どんどん成長していきます。
私も子どもは昔から変わってい
ないと思います。それよりも親の
関わり方が変わってきていると感
じます。「自分の時間は自分の時間
趣味の時間は子どもに時間を割き
たくない」と。手を放しても良い
とは思うけど、せっかく一緒に楽し
める何かがあるなら一緒に楽し
む方が子どもも笑顔になる。そう
すると親も笑顔になる。それはマ
マブラスの活動をしてすごく感じ
ます。子どもたちは、お母さんお
父さんと関わるのがすごく好き
です。お母さんお父さんがどれだ
け子どもに対して時間を割くかと
いうことが大切だと思います。

してないで
すね。外に
4人で遊び
に行つて全
然帰つてき
ません。友
達付き合い
がちゃんと
できている
と感じます。
ただ遊ぶ所
が少ないで
すね。私たちが子どもの頃はアス
レチックなどがたくさんありまし
たが、今は公園はあっても遊具が
少ないと感じます。PTA活動で
感じたのは、昔は子どもが遊んで
いると、そこに地域の大人もたく
さん集まって、みんなで子どもの
面倒を見る、そういった地域のつ
ながりの大切さです。私たちは、
園児・児童・生徒の健やかな成長
を願い、学校・家庭・地域・行政・
関係機関の連携を図り、子どもた
ちと共に学び、成長できる環境を
提案・提供していくことを考えて
活動しています。

市長 親子で活動できることは素
晴らしいですね。私も子どもが3
人いますが、子どもたちと一緒に
活動することが無かったですね。
気が付いた時は遅かったです。子
どもと一緒に活動しながら、同じ
ような仲間と一緒に活動すること
は素晴らしいですね。

山口 うちの子どもは家でじっと
してないで
すね。外に
4人で遊び
に行つて全
然帰つてき
ません。友
達付き合い
がちゃんと
できている
と感じます。
ただ遊ぶ所
が少ないで
すね。私たちが子どもの頃はアス
レチックなどがたくさんありまし
たが、今は公園はあっても遊具が
少ないと感じます。PTA活動で
感じたのは、昔は子どもが遊んで
いると、そこに地域の大人もたく
さん集まって、みんなで子どもの
面倒を見る、そういった地域のつ
ながりの大切さです。私たちは、
園児・児童・生徒の健やかな成長
を願い、学校・家庭・地域・行政・
関係機関の連携を図り、子どもた
ちと共に学び、成長できる環境を
提案・提供していくことを考えて
活動しています。



ゆめシティのステージイベントで演奏する
「いしんぴよび隊」

※2 タブレット…液晶画面と本体が一体化して薄い板状になっている情報機器のこと



毎年出演しているFor Kids フォーラム

かい家庭には子どもが笑顔がありますよ。それでは、皆さんは今後の子育てに子どもに何

さんがニコニコしていれば子どももニコニコしていると思います。主任児童委員をしていると、両親がいつもけんかしている家庭や虐待を疑うような家庭があります。そういった家庭には、実際に家庭訪問をして、孤立したお母さんたちを支援する、子育ての相談を聞くといった活動をしています。中には親が保育園や小学校に行かせないといった家庭もありました。しかし、訪問して子どもと話してみると、子どもは行きたがっていましたので、そういった場合は、まずお母さんの話を聞き、子どもを学校に通わせるといった活動もしています。訪問活動は、虐待などの早期発見にもつながります。

☺子どもに必要ない人

市長 行政だけではできないことまでやっていただいています。ありがとうございます。

やっぱり一番は家庭ですね。温

が必要だと思えますか。そのため

高

市から



児童虐待防止の啓発活動

今年

の4月から地区の民生児童委員と主任児童委員が一緒になってブックスタート(※3)事業に協力

していただけないかという話がありました。市役所で出生届を提出した家庭へ絵本を持っていくことをきっかけに、子育てをしている方の相談を受けたりできるのではという提案があります。虐待などがあった場合も早期発見できるため、地域で子どもを育てる活動につながればいいと考えています。

山口 子どもたちが安心・安全に生活できる環境づくりに積極的に取り組んでいくためには、学校・家庭・地域・行政・関係機関がより緊密に連携することが重要です。コミュニティ・スクール(※4)によって学校・地域とのつながりを強化し、地域とともに子どもを育てる環境づくりに努めています。

近年、いじめが問題になっていました。私の子どもも先日少しいじめられたようですが、子どもたちで解決できたので良かったと思います。それから子どもの話や意見をよく聞くようになりましたね。「何がしたい?」「何をしてほしい?」子どもの目線になって聞くようになりました。自分が今までできていなかったことに初めて気が付きました。

横山

子どもは親に迷惑、心配を掛けてはいけなくて小さいときから思うんです。自分で抱えきれ

なくなると黙っている子が多いです。そうならないためにも、小さいときから家族間のコミュニケーションを自然に取れて、どんなに小さなことでも相談できるフラットな関係を築くことが大切ですね。

大方 コミュニケーションが苦手な子どもたちは言葉も少ない傾向があるので、友達同士では普通の話をするつもりでも、家に帰って話すると親がいじめられたと過剰に反応してしまうこともあります。親が子どもの話をゆっくり聞いてあげて、状況をイメージして考えたいと思いますね。

市長 一人で悩ませないで、小さなときからそれができる環境づくりが必要ですね。

松本 親子で外に積極的に出て、刺激を受けることが大切なのかなと思います。親が社会と積極的に

関わると、子どもの社会も広がります。そのためにはお父さんも積極的に子育てに参加して、お母さんが社会に出て行ける環境を作ることが必要だと思います。夫婦で協力し合って、助け合い、共に輝いていけることが大切ですね。

市

外に出て親子で刺激を受けるのはいいことですね。夫婦で助け合い、協力し合ってお母さんが積極的に外に出て行けるような環境を作ることも大切ですね。少しのお手伝いですが、行政によるフォローをしていかなければならないですね。

大方 お父さんが手伝っているとはいえ、仕事、育児、家事をして

松本 女性も子育てをしながら積極的に社会に進出でき、男性も育児に積極的に参加できる環境が必要だと思います。子育てに理解ある職場があつてこそお父さんが積極的に育児に参加できると思います。お父さんが積極的に子育てに参加してくれて、地域が協力してくれる環境だと、すごく子育てしやすいですね。さらに市のサポートがあると、安心して育児をする環境になりますね。実際、遊ぶところも遊具も少ないですので、遊具がなくても外で楽しく遊ぶこと



児童と給食を共にする市長

※3 ブックスタート…「親子が絵本でよろこびをわかちあおう。」という呼びかけで1992年にイギリスではじまった運動です。ブックスタートは絵本を通じて親子がかけがえのないひとときをもつことを応援する運動

※4 コミュニティ・スクール…学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み



建設中のJR下関駅ビル
(ふくふくこども館が3階にオープン予定)

ができる遊びを教える取組が必要だと思いま

す。私たちが知らない遊びがまだまだたくさんあるはず

です。頼りすぎもいけないですが、家庭でできることは限界がありますからね。深坂の森ではさまざまなイベントや教室をしていますので、ぜひ市報でチェックしていただき、積極的に利用してほしいですね。

市長 お父さんの職場で子育てに対しての理解が必要だと思います。子どもは未来の財産なので、子どものために社会は動いていくという感じで、大人が発信していかないといけないですね。それに、両親が働きやすい環境を作っていくことが必要ですので、企業の意識改革をもっと進めてほしいと思います。

市長 働く環境の整備は国を挙げてやるべきですね。次代を担う子どもたちが何よりも一番の宝物ですからね。

宮川 私もやはり、子育てしやすい環境を作ることが重要だと思います。子育て中のお母さんたちの

「ここはこうしてほしい」といった意見を述べるところを作ってほしいですね。

市長 行政への提案はいろいろな手段があります。窓口で直接意見を言うっていただいても結構ですが、市長への手紙やメールでも私のところには届きますので、ぜひいろいろ提案していただきたいと思いますね。

山口 夫婦で協力し合えるように関係をこれからも築いていきたいです。子育てをしやすい環境を地域みんなで作っていかなければなりません。遊ぶ場所はあるけども遊具がないので、みんなで遊ぶ遊びを教えてほしいですし、それを地域の大人も一緒になって遊び地域みんなで子どもの面倒を見るといった環境ができれば子育てしやすいと思います。

横山 子育てをしている家族や親側のサービスだけではなく、子どもが将来大きくなった時に、下関に住みたいと思ってもらいたいですね。いろいろな制度を作っていく前に、本当に子どもをどうふううに育てたいかを決めることが大切だと思います。それと、子どもには本物を見てもらいたい。小さいときから本物を見ることで、将来大人になったときに本物を見分けられるようになると思います。例えば、美術館に子どもを連れて行って、素晴らしい絵や彫刻などを見せてほしい。「解る、解らない」

ではなく、その場所の雰囲気をお父さんお母さんと感じてほしいですね。

市長 皆さんの今後の抱負を聞かせてください。

宮川 それぞれの地域性や温度差はありますが、わがまちならではの子育て支援を民児協内外協働で、地域で子育てがしやすいような活動をしたいと思っています。

山口 子どもたちの未来を作るために、周りの大人たちが子どもたちと協力して子育てをして下関市を盛り上げていこうと思います。地域や各団体と積極的に関わるPTA活動をしたいと思っています。

松本 私たちは「親子が笑顔で楽しく過ごせるように」をモットーに活動しています。子育て中でもこんな楽しみ方があるんだということを多くの方に見て感じていただけたらと思います。私たちは大人も子どももみんなで音楽を楽しんでいます。親子で楽しめて、見てもらえば元気になる、そんなステージを目指して頑張りたいと思っています。

大方 私たちの活動を見て少しでも男性保育士が増えてほしいです。これからもバンド活動を通じて子どもたちに笑顔と夢を与え、子どもたちに演奏する楽しさ、親子で一緒に遊ぶ楽しさを伝えていきたいです。同時に、お父さんたちに子育てに参加し、子育てを共に楽

しみましようと呼び掛けていきたいと思えます。

市長 今日集まった皆さんの活動を一緒にすると、もっと大きく広がり、さらに盛り上がるかもしれないですね。最後に横山さんお願いします。

横山 子どもには空想する想像力と物をつくる創造力があると思います。それを育てるものは「ことば」です。考えないとそれはできない。そのためには本を読んで考える、想像する、自分でやってみようという気持ちになることが大切です。子どもが本を読める環境を作りたいのが私の長い願いです。これからも子どもと本を結びつける活動に今まで以上に力を入れていきたいと思っています。

◎今後について

ふくふくこども館

市長 現在整備中のJR下関駅ビルの3階に、今年の4月1日「ふくふくこども館」がオープンする予定です。この施設は「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとし、施設内には「こども一時預かり室」「授乳室」「相談室」、各種イベントや講習会が開催できる「多目的室」、工作などができる「交流スペース&クリエイティブランド」、海の中をイメージした乳幼児のための遊び場で、ボールプールなどの遊具があ

る「プレイランド」などを備えます。この施設では、さまざまな子育て支援の事業を展開します。多くの方にご利用いただき、子育ての応援ができればと考えています。

まとめになります。皆さんからお話があったように、子どもたちに感性や創造力を豊かにするさまざまな体験や経験をさせたいですね。そして、親御さんたちが安心して子育てができれば、子どもたちは健やかに育ち、笑顔があふれる明るいまちになると思います。これからも、元気なまちづくり、地域づくりに皆さんの力を借りたいと思います。ご協力をお願いします。

今年も皆さんにとって、明るい良い年でありますように。今日はありがとうございました。

